

パモジャ



2010年3月号

INDEX

- 1) 今月の1枚: 「Waganga (Witch Doctors)」
- 2) JICA in Tanzania : 「給水率向上への支援」
- 3) クリニコ? : 2月のできごと
- 4) JichoのJicho : 「キゴマ州 安全確認調査」

(1) 今月の一枚: 「Waganga (Witch Doctors)」



Witchdoctor なるものはタンザニアにかぎらず、アフリカ全般に存在すると思います。写真(提供:堤さん)のような用具を使い、お祓いをしたり、草木などの薬を使った治療をしたり、更には呪術を使ってお祈りをしたりします。お祈りの中には良いものもあれば、呪いをかけるものもあり、こちらは Uchawi と呼ばれて恐れられています。

タンザニアでは Waganga は、近代医療施設のない田舎はもちろん、病院やクリニックのある町部においても、広く人々に利用されています。近代政府においては彼らは排除すべき対象とされてきていますが、近年、昔から頼りにされている Waganga たちを無視して医療向上はできないと見直しもされ始めており、HIV 対策や様々な医療改善の対象にも組み込まれてきているようです。同じように、Mkungu と呼ばれる産婆さんの存在も、クリニックの遠い田舎における母子保健対策として見直しされてきています。

古いシステムと新しいシステムがうまくかみ合わさって、人々の生活の向上につながっていけば良いですね。(史)

(2) JICA in Tanzania: 「給水率向上への支援」

山本 哲也 所員

3月22日は「世界水の日」
ということで、水についての記事です。
(「世界水の日」については、
2009年3月号のパモジャをご参照ください。)

水セクターは、タンザニアに対する日本の重点支援分野のひとつです。タンザニア本土で現在実施中のプロジェクトは、水資源の開発が難しいといわれているタボラ州で、地下水を中心とした水資源賦存量の調査と給水計画の策定(技術協力)や、過去にそうした調査・給水計画策定を実施した地域¹で、井戸掘削等による給水関連施設の建設(無償資金協力)、過去に給水関連施設を建設した地域²で、タンザニアの地方自治体が自分たちで新たに村落給水事業を実施したり給水施設の運営維持管理を行ったりする能力の強化(技術協力)などがあります。日本は、これらの活動を通じて、主にタンザニアの地方部における「給水率」の向上を目指しています。

このように、水セクターにおける協力の大きな目標のひとつとして「給水率を上げること！」が挙げられますが、ところで、「給水率」ってどのようにして定義・測定されているのでしょうか？



カゲラ州難民居住区周辺地域給水・医療改善計画

¹ ダルエスサラーム州及びコースト州、ムワンザ州及びマラ州

² ダルエスサラーム州及びコースト州、リンディ州及びムトワラ州



ここで、ひとつ面白い(?) 調査結果をご紹介します。

タンザニアの地方部における 2007 年の給水率が、統計局 (NBS)³ では 40.4%と報告されているのに、水・灌漑省 (MoWI)⁴ では 57.1%と報告されているのです。なぜこのような違いが生じるのでしょうか？

実は、NBS が「どれだけの人々が安全な水にアクセスできているのか？」という視点で調査しているのに対して、MoWI は「給水施設がどれだけあるのか？(だから、約 人が安全な水にアクセスできているだろう)」という視点で調査しているのです。つまり、「給水率」の調査において、output (給水施設の数) と outcome (安全な水にアクセスできる人々の数) が明確に区別されていないのです。



穴に溜ったにごった水を生活水に。

また、output データから outcome データを推定するという方法では、「実際にどれだけの人々が安全な水にアクセスできているのか？」ということ調べるためには不十分なのです。

例えば、「給水施設が 1 つあれば、どれくらいの人々が安全な水にアクセスできるのか？」という疑問が出てきます。

2002 年に策定された国家水政策では、1 つの給水施設で約 250 人が給水できるとされています。他方、MoWI の Water Sector Performance Report では、給水施設あたり 487 人という数字が報告されており、また、世界銀行が中心となって 13 県を対象に実施した Public Expenditure Review (PER) 調査では、給水施設あたり 166 人という数字が報告されています (バラバラ...)。

また、給水施設があるからと言って、人々が安全な水にアクセスできるとは限りません。人々は、もしかしたら無料の、安全でない水を好むかもしれませんし、給水施設がきちん

と稼働していないかもしれません。

これらのことから、output データ (給水施設の数) から、outcome データ (安全な水にアクセスできる人数) を推定するのは困難と言えます。そこで、「給水率」と言った場合には、output データと outcome データを明確に区別すること、そして output データから outcome データを推定することは避けてそれぞれを分けて測定・モニタリングすることが大切になってきます。

タンザニアの第 2 次貧困削減戦略 (NSGRP。通称 MKUKUTA) は、2010 年で終わりを迎えます。これに伴い MKUKUTA Review が実施されていますが、この一環で様々な調査が実施されています。水セクターでは、「Comprehensive Review of Sector Performance Monitoring Framework and Systems」という調査が実施され、Table1 のような統一的なモニタリングフレームワークが提案されています。

タンザニア水セクターでは様々なドナーがいろいろな支援を実施していますが、その支援の成果を正しく測定してモニタリングしていくためにも、統一的なモニタリングフレームワークと、適切かつ確実にデータを収集・報告していくことが求められています。そして、そのデータが次の給水率向上への対策、支援へとつながっていくのです。

Table 1: Proposed Revised Monitoring Framework for Rural/Community Water Supply

	指標	入手手段	頻度
Outputs	Number of public improved waterpoints	NRWSIMS, routine monitoring by LGAs	Annual
	Annual functionality rate	NRWSIMS, routine monitoring by LGAs	Annual
	Number of COWSOs registered as legal entities	Routine monitoring by LGAs, MoWI	Annual
Outcomes	% Household using improved sources for drinking water	Household surveys (NBS)	1-2 years
	% Household using improved sources for drinking water and accessing within 30minutes collection time	Household surveys (NBS)	1-2 years

³ Household Budget Survey (HBS) (2007)

⁴ Water Sector Performance Report 2007/2008 (2007)



(3)く・り・こ・に? 2月のできごと

[青年海外協力隊]

2月15～16日: Teaching Skills Workshop
@Dodoma Secondary School

これまでは理数科教師のWSとして南東部で行われていました。今回は新しい試みで、首都ドドマで!!職種・校種を問わずに!!「環境」というテーマで開催されました。模擬授業ではTZ教師とJOCV教師のteam teachingや“森の大切さ”などバラエティな授業が盛り沢山でした。

アクティビティでは参加者全員でディベートを行ったり、“モリンガ”の水洗浄実験をしたり、ソーラークッカーを作り、実際にチャイ・ご飯・ゆで卵・ムシカキの調理に挑戦しました。最後にはTZ教師から「皆でコンタクト交換をしよう!」と発言が起こるほど、参加者の反応も良く、**大成功**となりました。(ですよね、皆さん...!?)



TZ教師とJOCV教師の情報共有、交換が今後、タンザニア教育の質の向上に繋がればと思います。

(20-1 理数科教師 袴田彩乃隊員)

[青年海外協力隊]

2月20～21日: 「平和展」開催@ドドマ

開催場所は袴田隊員の活動先ドドマセカンダリースクール。袴田隊員は生徒に資料を渡し、生徒自身が平和に関する壁新聞を作りました。



私は、過去に隊員が作成した紙芝居「佐々木禎子と千羽鶴」に効果音を付け、生徒や友人に参加してもらい映画化したものを上映しました。宇佐見隊員(理学療法士 H20-3)はタンザニア、特にドドマと絡めたクイズラリーを作成。一番人気だったのはドドマ隊員の写真と自己紹介。平和展の後、道端で名前を声かけられ、うれしかった。戦争は悲しみと不幸を生むもの。決してやってはいけないと歴史が教えてくれているということが伝わったと確信します。

(20-1 PCインストラクター 山崎優子隊員)

2月11日～13日: Press Tour to

Kilimanjaro and Arusha Regions

Some Tanzanian Media (Local News Papers and TV) traveled to Kilimanjaro and Arusha to observe JICA's TANRICE activities to study on New Rice for Africa (NERICA) and to observed Training for Farmers from Zanzibar. TANRICE conducts training to farmers in the country and beyond the country. After training, farmers transfer skills to their fellow farmers in their villages.

At Lekitatu Irrigation Scheme, farmers said that since they attended training at KATC in 1997, their production rose from 3.2ton/ha to 6.5ton/ha. Medias were very impressed on JICA activities as they were told that since practiced irrigation system, the social services were improved in both irrigation schemes of Lekitatu and Lower Moshi. Farmers managed to build good house, increase schools, hospitals, improve roads as well as employment opportunities.

After the tour, Medias have issued several articles through news papers, radio and TV, and they help to rise awareness to the public focusing to farmers and other beneficiaries about irrigation cultivation technology. (Ms. Catherine Shirima : Asst. Programme Officer/General Affairs)



[州保健行政システム強化プロジェクト (TC-RRHM)]

2月8日～13日:年次計画書式策定ワークショップ@イリンガ

中央の出先機関である州保健局に、実質的にはようやく今年度より、保健バスケットファンドから一州あたり2億シリング前後の予算が配分・支出されています。ところが、標準化した年次計画書の書式がない！そのため、シンプルで有意義な年次計画書式づくりを目指したワークショップを21州の州保健局と実施しました。その後、保健福祉省から参加者の意見を取り入れた年次計画書式最終版が配布され、各州保健局は次年度の年次計画書策定に取り組んでいます。現在、同省とともに、現場での保健サービス向上につながる実行可能な計画づくりを促進するため、計画書の評価方法を検討中です。

(写真:各州からの参加者が合同で年次計画書式への提案を検討しているところ)

(文責:州保健行政システム強化プロジェクト、福士恵里香)



「ASDP 事業実施監理能力強化計画」(農業 M&E 技プロ) 2月:第2回巡回指導研修

村から中央へ農業データを定期的に報告する全国共通フォーマットを試行実施中の、モロゴロ、キロサ、ムブワブワ、コンドアの4県にて、各3日間の研修を行いました。村・郡の全普及員を対象に、農業関連5省庁および県・州の職員がファシリテーターとなって、時には熱い議論を交わしながら、各データの収集方法やフォーマットの修正箇所を確認しました。試行中ながら、村・郡から集まったデータはすでに各担当者間でひっぱりだことなり、県農業畜産開発課の業務に役立ち始めています。

時間はかかっても、こうした参加型プロセスを通じ、中央だけでなく普及員や県にとっても使い勝手のよいフォーマットを作ることが、近い将来の全国展開とその後の定着につながると期待しています。



(4) Jicho の Jicho: 渡辺次長
「キゴマ州 安全確認調査」

キゴマは北西部を隣国ブルンディと接しており、タンガニーカ湖をはさんで西側にコンゴ(民)を臨む、タンザニア最西端の州です。今のところ、キゴマ州に入るには安全上の申請が必要な地域になっていますが、以前に比べ、西側の治安状況は改善されつつあり、今回は安全状況調査のため、ナショナルスタッフのムソフェ氏とキゴマ州を訪問しました。

キゴマタウンは、都市部人口約14.5万人の中規模の地方都市です。ダルエスサラームからの中央鉄道の終着点であり、コンゴ、ブルンディへの玄関口となっています。タンガニーカ湖畔の風光明媚な場所で、Mahale 国立公園、Gombe 国立公園への基点でもありツーリストも結構見かけました。



キゴマタウン中心部(奥に見えるのが中央駅)

2003年時点で、タンザニアは50万人あまりの難民を、コンゴ(民)、ブルンディ、ルワンダから受け入れていましたが、状況は着々と動いています。既にカゲラ州に受け入れられていた難民は帰還済み。1970年代から存在するルクワ、タボラ両州にある三ヶ所の居住区(Mishamo, Katumba, Ulyankuru) にいた約22万人のブルンディ難民も、本国への帰還とタンザニア



への定住化のプロセスが進捗中で、約 51,000 人がブルンディへ帰還し、162,000 人がタンザニアの市民権取得を申請する方向で、承認手続きが進捗している状況です (UNHCR Tanzania Fact Sheet 2009/9/30 より)。今後、定住化が進むにつれて、ブルンディの人たちが摩擦を生まない形で、いかにタンザニア社会に溶け込んでいくかが大きな課題です。

一方、今回訪問したキゴマ州カスル県のブルンディ国境付近には2ヶ所のキャンプが存在します。ブルンディ難民 37,000 人の Mtabira キャンプ、コンゴ難民 63,000 人の Nyarugusu キャンプです。UN セキュリティアドバイザーの話では、Mtabira キャンプの中には、三ヶ所のポリスステーションと数十人の警官が配備されていますが、ブルンディ側から国境を越えて入ってくる武器などもあり、治安維持がなかなか容易ではないとのことです。

タンガニーカ湖(向こう側にコンゴが見える)



一方、3~4年前に比べると、ブルンディ国境周辺の道路の治安状況はかなり良くなっています。州警察は、ブルンディ側の警察と協力しつつ、国境警備に当たっており、ブルンディ側から入ってくる武器や武装グループの侵入の阻止にあたっています。それでも、場所によっては警察のエスコートが必要です。

他のアフリカ諸国に比べて、治安上比較的安定しているタンザニアですが、西側の国境付近では、未だに、周辺国で起きた抗争の後遺症が残っています。これらの民族抗争によって生じた難民受入れに対するタンザニアの積極的な姿勢に、改めて敬意を抱くとともに、ブルンディ国境における治安状況が、さらに改善されることを願う次第です。

以上

(5)カリブ・クワヘリ

~ようこそタンザニアへ！ お元気で！さよなら~

~ようこそ！タンザニアへ！~

電力支援『効率的な送配電システムのための能力開発プロジェクト』のチームリーダーが着任です。

今回、電力分野の技術協力プロジェクトで、3月中旬から赴任する長坂二郎です。今まで30年近く電力関係の業務をしてきました事から今回のプロジェクトに関わる事となりました。私にとりましては、初めてのアフリカ大陸への上陸で、タンザニアは未知の世界です。現在、埼玉県に住んでおり、寒い日は湯たんぽを使う日々から30度の世界へ行くことになります。今まで、アジア地域を中心に仕事をしてきました経験から、仕事に誠実に向き合えば道が開けてくると信じております。既に、東京で多くの新しい人々との出会いがありました。タンザニアでも、私の好きな言葉: where there is a will, there is a way. の信念のもとに、多くの人々との出会いを楽しみにしております。

~！さようなら！お元気で！~

青年海外協力隊員11名が、今月21日、22日、26日にタンザニアでの活動を終了し、帰国します。代表して、19年度4次隊の荒石隊員よりのメッセージです。

3月22日、(同期隊員1名を4日ほど残し、)19年度4次隊の8名は日本に帰国します。この2年間の生活、タンザニアの人、文化、習慣に、さまざまな葛藤、苛立ち、悪戦苦闘してきた時も少なくはありませんでした。しかし、同時に幾度もそのタンザニアの人、文化、習慣に救われ、助けられ、支えられ、最後には、たくさんの事を学ばせてもらい、ひとりひとりが前向きに成長できた2年だったと思います。本当に「アッ」という間でした。「あー。。。と長く思う1日はあったにせよ、2年間全体を見ると、「アッ」だったなと。

時には、怪我、体調を崩すことなどもありましたが、今ここで健康で、無事に全員で帰国できることも、一重にボランティア活動を支えてくれるJICA関係者及び一緒に活動している協力隊員の皆さまのおかげだと思っております。心から御礼申し上げます。帰国後、この2年間で学んだ事を更に社会に還元し



ていけるよう努めていく所存です。皆さま、健康と安全にはどうぞお気をつけてお過ごしください。

Nashukuru sana na Kilala Heri

2007年11月より在外専門調整員として財務省にて活動していた高村智子さんが離任です。

無事約2年と5ヶ月間の勤務を終え、離任いたします。この間、JICA 事務所の所長をはじめ次長、担当所員、公共財政専門企画調査員の皆さんには多大なる信頼とサポートを受け、今日まで財務省で勤務を続けることができました。

タンザニア中央政府の一職員として仕事をすることは大きな試練でもありましたが、被援助国の側から援助の世界を見ることは非常に興味深く勉強になりました。今後も国際協力の世界で仕事をしていく中で、ドナーとしての立場だけを優先するのではなく、政府側の見解をも尊重できるアプローチを持って接していきたいと思います。

JICA タンザニア事務所: P.O.BOX 9450 Dar es Salaam
Tel: :255-22-2113727-30、 Fax: :255-22-2112976

<http://www.jica.go.jp/tanzania/>

パモジャ (Pamoja) 編集部: 皆様からのご意見や、
Goodな情報の提供をお願いします!

adachifumiko.tz@jica.go.jp

リレーエッセイ
~ Rafiki yangu 私の友だち in Tanzania

(20-1次隊 松木 寛子さん)

近所に住む女の子サラ。

「物語の聞かせ合いっこ」が好きで、
動物や怪物が出てくるお話を
臨場感たっぷりに聞かせてくれる。
貧しくても子供を売ってはいけない、
などの教訓も特に含まれている。

電気もない村の夜長、

物語で家族団らんの時を過ごしているのです。

次回は、メルー山の麓でコンサル活動から
NGO 支援まで幅広く活動中の鈴木さんです!

